



図書館という空間

附属図書館長 谷口 匡



私はふだんG棟4階の中央という、学内では附属図書館から最も遠い研究室の一つにいる。だがそのわりには図書館によく足を運ぶ。それは漢文学という専門が大量の図書を必要とする分野だからだが、どうもそれだけではないようだ。

郷里の家の近くに県立図書館があった。中学の頃は試験前によく友人の〇君と通って、勉強した思い出がある。近ごろの公共図書館は「勉強」を禁止する所が多いが、当時は寛容であった。

図書館を最も活用したのは大学時代である。演習の発表前になると文献を渉猟して閉館ぎりぎりまで粘ったものだ。4年生の秋には日々気に入りの席に陣取り、原稿用紙を広げて卒論執筆に勤しんだ。まだパソコンが出現する前の話である。こうした原体験のためか、図書館は勉強する所で、落ち着いて読書する空間ではなかった。今もそうであり、本はゆっくり家で読みたい。

では図書館になぜ行くのかといえば、何とんでも本に囲まれた空間の魅力による。学生の頃は図書館での勉強に疲れると書架の間を彷徨して気分転換した。母校の図書館はほぼ完全な開架式で、一部の貴重書を除けばすべての蔵書を手にとることができた。構造の関係で入口が2階にあり、感覚では地下のような、少し薄暗い1階に年代の古い蔵書が集まっていた。私な

どが必要とする書物はその階にあることが多く、気がつくといふ何十分もそこにいることがしばしばあった。京教の図書館では東館や西館の書庫がそれに当たる。次々と本を探すうちに、最初に調べていた事柄を忘れて思いがけない文献に出会ったり、未知の分野に手をのぼしたりするのである。インターネットのように疑問に対する「答え」をすぐに用意してくれないかもしれないが、反面、図書館は学びの可能性を大きく広げてくれる。図書館に行く醍醐味がここにある。

また図書館は急に文献が必要となった時の救世主である。授業や研究以外でも、いつかラジオ番組で朗読していた有吉佐和子「紀ノ川」の全文が読みたくなり、『昭和文学全集』を借り出したことがあった。この原稿を書いている今は、『大漢和辞典』で著名な諸橋轍次もろはしてつじの記念館を訪ねようとしているが、それに先立って著作集を繙こうと思い立った。そんな時も図書館の蔵書がとても頼りになる。

「コロナ禍」で図書館が休館し、在宅で利用できるデジタルの図書に助けられたのは記憶に新しい。だがやはり私は紙の本に直接ふれ、手触りを感じながら読書したい。そしてこれからも図書館をリアルな空間として楽しみたい。



新入生のみなさんへ

ご入学おめでとうございます。みなさんの大学生活が豊かなものとなるよう、図書館職員一同、心からお祈りしております。図書館は、正門からのメインストリートに面した4階建ての建物で、1階には学生課があります。まずは一度見に来てください♪



西・南の2階にはシラバス図書や教科書などとともに閲覧席が並んでいます。自習、研究、レポート執筆の中心です。

北の2階には研修・セミナー室やラーニングcommonsがあります。セミナー参加や模擬授業練習、IPC提供PCでのレポート執筆、様々な用途にお使いいただけます！

企画展示室

学生の皆さんでも利用できます。自分たちの作品の展示などに是非！

Assets展(美術領域専攻)

【会期】3月17日(金)~4月14日(金)



開催中！

南館1階はDVDや新聞、雑誌、小説、マンガ、絵本などがあります。気軽にのぞいてみてね！

西の3・4階は書庫スペース。見晴らしく研究がはかどります。



予約制！図書館ツアー・講習会に参加しよう！

図書館ではさまざまな講習会を、4~5月中予約制で開催します。レポート・論文を執筆する前に、図書館職員から施設・サービス・資料の利用方法を聞いてみませんか？ご参加お待ちしております！

【申込方法】氏名・専攻・希望講座・希望日時(曜日・時限(平日 11:30~17:15))を明記の上 library@kyokyo-u.ac.jp 宛に前日までにご連絡ください。調整の上、いただいたメールアドレスに開催日時を連絡いたします。

【集合場所】附属図書館カウンター

詳細は、ホームページやポスターで！

予約制！図書館ツアー・講習会

図書館ではさまざまな講習会を、4~5月中予約制で開催します。レポート・論文を執筆する前に、図書館職員から施設・サービス・資料の利用方法を聞いてみませんか？ご参加お待ちしております！
実施期間：2023年4月12日(水)~5月31日(水)

【実施講座】 各回25分程度

- ・図書館ツアー…まずは館内を歩いてみよう！
- ・レポート・論文資料収集法【データベース検索編】
…資料収集に便利なデータベースを知ろう！
- ・レポート・論文資料収集法【日本語文献検索・入手編】
…論文の資料集めをしよう！
- ・レポート・論文資料収集法【海外文献検索・入手編】
…海外の文献を集めよう！

【申込方法】氏名・専攻・希望講座・希望日時(曜日・時限(平日 11:30~17:15まで))を明記の上 library@kyokyo-u.ac.jp 宛に前日までにご連絡ください。調整の上、いただいたメールアドレスに開催日時を連絡いたします。

【集合場所】
附属図書館カウンター



京都教育大学附属図書館

ブックハンティング 2022 開催報告

ブックハンティングは、書店に並んでいる本の中から学生の皆さんが「図書館に置いてほしい」と思う本を選ぶ企画です。2022年は前期に店頭での選書を2回、後期に店頭選書1回とWeb選書を併せて行い、計15名の方に168冊の本を選んでいただきました。後期に選ばれた本は推薦文と併せて館内で展示していますので、ぜひご覧ください！

【場所】1階渡り廊下

【期間】2月1日(水)～4月28日(金)



貸出できます



リクエストと投票で話題の本を読もう！

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています！リクエストや投票にどんどん参加してください！

【投票期間】4月5日(水)から

※結果によっては購入できないこともあります。
※学習研究目的のものは原則として購入していません。



学修相談カウンター

院生がいろいろな質問に対応してくれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか？今年度も実施予定です！



詳しくはHP等でご確認ください→



附属図書館 在学生アンケートの実施について

附属図書館では学生利用者の要望・評価を調査することを目的に利用者アンケートを行っております。よりよい図書館にしていくため、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【調査方法】アンケート用紙およびWebフォーム

【対象】本学に1年以上在籍している在学生全員

【配布方法】用紙は在学生オリエンテーション時に配布および回収箱の近くに設置

【回収方法】回収箱（設置場所 図書館、オリエンテーション会場）およびWebフォーム

【回収時期】4月28日(金)まで



春季休業に伴う長期貸出について

学部生：1月30日(月)～4月4日(火)

院生・教職員：1月16日(月)～3月20日(火)

【返却期限日】4月19日(水)

児童書コーナー(南館1階)



今月の絵本カード(学生作)
『もうぬげない』
作:ヨシタケシンスケ
出版社:プロンズ新社



※児童書コーナーに
かわいいカードが
飾られていますので、
ぜひ見に来てくだ
さい。

教育資料館 まなびの森ミュージアム

【4月の開館日時】

・10日(月)、17日(月)、24日(月)、14:00～17:00
・7日(金)9:30～12:30 ※入学式

今月の逸品(4・5月)

『京都教育大学日本史学研究室所蔵資料』

文政7年(1824)9月宗門人別帳(錦小路通鳥丸東入元法然寺町)

展示場所:附属図書館

教育資料館 まなびの森ミュージアム
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **角田 豊**(大学院連合教職実践研究科 教授)

学校臨床力を磨く事例検討会についての質的研究 —事例検討会そのものを省察する試み—

角田 豊・中垣 ますみ・永尾 彰子

京都教育大学紀要 2022, No.141, pp.43-59
URI:<http://hdl.handle.net/20.500.12176/9763>

「学校臨床力」とは耳慣れない用語だと思います。この言葉は、子どもの心の成長を促す教師の実践力を指しています。学校現場では毎日たくさんの「かかわり合い」が、教師と子どもとの間で行われています。その相互作用の中で、少しでもその子どもの成長のニーズに応えるのが、教師の仕事といえるでしょう。「学校臨床力」とは、「ある子ども」と「ある教師」という、他には存在しない唯一無二の関係の中で、教師が見立てとかかわりを模索する、つまり臨床的なかかわりを行う感性や力量といえます。

こうした学校臨床力を磨くには、子どもとの実践について「省察(reflection)」することが役立ちます。省察方法には、まず自分でエピソードを書く「自己省察」と、それを信頼できるメンバーと一緒に検討する「グループ省察会」があります。

「事例検討会」というのは、ある子どもについて、担任やかかわりのある教職員が集まって話し合う場のことです。こうした事例検討会を、省察を目的にしたグループ省察会として活用することができます。

今回の研究では、現職教員大学院生向けに教職大学院の授業で行われた 6 回の事例検討会について、改めて授業担当者である筆者らがふり返って検討を行いました。そこからは、一連の事例検討会に共通したテーマが見えてきました。それは、教師がかかわり合いを通じて、自らに生じる様々な「葛藤」とどのように向き合うのか、そのありようの変化・成長ということでした。葛藤をなくすのではなく、しっかりと葛藤することで、教師は学校臨床力を磨くことが明らかになったといえます。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 141 号に掲載されています。

※京都教育大学リポトリ「クエリ(KUERE)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2023年4月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

4/7 入学式
4/12 前期授業開始

2023年5月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

●京都教育大学附属図書館ホームページ
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>
(QRコード→)



京教図書館 News No.271 (2023年4月号)

発行日:2023年4月3日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

国立大学法人
京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION